



モーツアルト室内管弦楽団 第120回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 120. Regelmäärkonzert

〈1年遅れのシューマン・イヤー特集〉

2007年5月3日(木・祝) 午後2時 ■ いすみホール

Donnerstag, 3. Mai, 2007, 14:00Uhr. *Isumi Hall*, Osaka

- 主催：モーツアルト室内管弦楽団、毎日新聞社、大阪芸術祭協会
- 協賛：いすみホール〔財団法人 住友生命社会福祉事業団〕
- 後援：大阪府、大阪市、大阪商工会議所、毎日放送、スポーツニッポン新聞社
- マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail:artists@gol.com
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 Tel 06-6135-0503



モーツアルト室内管弦楽団 第120回定期演奏会
Mozart-Kammerorchester/120. Regulärkonzert

2007年5月3日(木・祝) 2:00pm.●いずみホール
Donnerstag, 3. Mai, 2007, 14:00Uhr. ● Izumi Hall, Osaka

〈1年遅れのシューマン没後150年記念特集〉

ロベルト・シューマン(1810-1856)
Robert Schumann (1810-1856)

ピアノ協奏曲 イ短調 Op.54

Konzert a-moll für Klavier und Orchester op.54

- I. Allegro affettuoso (速く、情愛を込めて)
- II. Intermezzo : Andante grazioso (間奏曲：歩く速さで、優雅に)
- III. Allegro vivace (速く、活気を持って)

チェロ協奏曲 イ短調 Op.129

Konzert a-moll für Violoncello und Orchester op.129

- I. Nicht zu schnell (速すぎないように)
- II. Langsam (遅く)
- III. Sehr lebhaft (非常に生き生きと)

* * *

交響曲 第4番 ニ短調 Op.120

Sinfonie Nr.4 d-moll op.120

- I. Ziemlich langsam - Lebhaft (大変遅く—生き生きと)
- II. Romanze : Ziemlich langsam (ロマンス：大変遅く)
- III. Scherzo : Lebhaft (スケルツォ：生き生きと)
- IV. Langsam - Lebhaft (遅く—生き生きと)

ピアノ：山上明美
Klavier : Akemi Yamagami

チェロ：斎藤建寛
Violoncello : Tatsuo Saitoh

管弦楽：モーツアルト室内管弦楽団
Orchester : Mozart-Kammerorchester

指揮：門 良一
Dirigent : Ryoichi Kado



門 良一 ● 指揮

Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。62年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツアルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツアルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツアルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。

現在、NHK大阪文化センター、同神戸文化センター「モーツアルトを聴く」講師。京都産業大学教授。



山上明美 ● ピアノ

Akemi Yamagami, Klavier

第17回全日本学生音楽コンクール第2位。第14回文化放送音楽賞受賞。東京芸術大学附属高校卒業後、西ドイツ・マンハイム国立音楽大学に留学。ジュネーヴ国際音楽コンクールにおいてショパン賞受賞。同大学演奏家試験にて最優秀で卒業。田村 宏、園田高弘、F.ヴューラー、N.マガロフの各氏に師事。帰国後もたびたび渡欧し、G.アンダ、G.バシヤヘリ、R.スマジヤンカ、M.クルチヨの各氏に師事。マンハイム・デビューリサイタル後、東京、名古屋、大阪、北海道から九州、沖縄にいたる全国各地、国外ではソウル、そしてフランクフルト、デュッセルドルフなど欧洲においてもリサイタルを行い国際的に活躍。オーケストラでは日フィル、名フィル、新日フィル、京響、大阪フィル、関西フィル、大阪センチュリー、大阪シンフォニカー、テレマン室内、モーツアルト室内、ワルシャワシンフォニア等との協演、また室内楽においても安永 徹氏率いる福岡アンサンブルコレーゲでは絶賛され、ターリッヒ弦楽四重奏団、浦川宜也(Vn)、藤原浜雄(Va)、金 昌国(Fl)、磯 恒男(Vn)、関西では高橋満保子(Vn)、上村 昇(Vc)などとの共演も注目された。サントリーホール「ショパンピアノ曲全曲演奏会」でのリサイタル、フェスティバルホール「花博コンサート」などのコンサートに出演し、積極的に幅広く活躍。NHK-FM「現代の音楽」「午後のリサイタル」等に度々出演。また、ブリマ・ヴィスター弦楽四重奏団との「シューマン：ピアノ四重奏曲、五重奏曲」のCDをリリース。音楽クリティック・クラブ奨励賞、大阪文化祭賞、第8回ショパン国際ピアノコンクール イン アジアにおいて指導者賞を受賞。現在、神戸女学院大学教授。大阪音楽大学非常勤講師。(財)日本ピアノ教育連盟特別評議員。



斎藤建寛 ● チェロ

Tatsuo Saito, Violoncello

桐朋学園大学音楽学部卒業。卒業時に音楽賞受賞。同大学音楽学部研究生修了。のちにスイス・ジュネーヴ音楽院にて学ぶ。東京国際音楽コンクール室内楽の部にて1位なしの第2位入賞。名古屋市より都市文化奨励賞、大阪市より第3回「咲くやこの花賞」などを受賞。尾高忠明氏指揮、大阪フィルハーモニー交響楽団と協演してデビューののち、東京フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪シンフォニカー、テレマン・アンサンブルなどと協演。過去2回にわたり、ボーランド国立ショパン音楽院の招聘により「ショパンのチェロ作品全曲」をワルシャワ、ザガニュ、ピアウイストク、アントニン、シャファルニアの各都市にて演奏。現在はソロ、室内楽の分野での演奏活動を広く展開し、2000年12月より2003年6月まで、大阪のザ・フェニックスホールにて、半年に一回のペースでバッハの「無伴奏チェロ組曲全6曲」を毎回一曲ずつ織り込んだプログラムによる「斎藤建寛リサイタルシリーズ全6回」を開催、また2004年には18曲の小品のみによるリサイタル「愛の音」を、2006年には「愛の音 part II」を開催した。2006年夏にはドイツに渡り、シェラダーン、ヴァールブルクの各都市でリサイタルを行う。

これまでにチェロを斎藤秀雄、井上頼豊、日比野忠孝、ギー・ファロー、アンジェイ・ジェリンスキの諸氏に師事。現在、相愛大学音楽学部教授。相愛音楽教室室長。日本チェロ協会評議委員。



モーツアルト室内管弦楽団 Mozart - Kammerorchester

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、37年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的室内オーケストラである。レパートリーはモーツアルト、ハイドンを中心とした古典派からパロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツアルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツアルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。

'91年のモーツアルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツアルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで'90年からは大阪いずみホールを本拠として定期演奏会を、また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に16回を数えている。海外では'88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ビリス('85、「87年)、シプリアン・カツァリス('93、「94年)、ベーター・ダム('83、「86、「88、「98、「00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル('86年)、ライナー・キュッヒル('90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。'91年に姉妹団体、モーツアルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、「93年には堺シティオペラとの協力による「モーツアルト・オペラシリーズ」を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。'06年1月にはモーツアルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。

モーツァルトの作品を主たるレパートリーとしている私とモーツァルト室内管弦楽団が、どうしても演奏したいロマン派の曲が2つばかりあった。その2曲とは、シユーベルトの最後の交響曲である《ザ・グレート》と、今日演奏するシューマンの4番なのである。《ザ・グレート》は、2002年6月の第103回定期演奏会で「清水の舞台から飛び降りるつもりで」(演奏会プログラムの拙文)取り上げ、幸いにも好評を得た。シューマンは昨年が没後150年の記念の年だったが、当方はモーツァルトの生誕250年に忙しかったため、1年遅れの特集として協奏曲の2つの名曲とともに取り上げることになったのである。

どうしてこの2曲かというと、それらが溢れんばかりのロマン的感情に満ち満ちていながら、音楽の形式は非常に古典的であり、気品の高い名曲であるからである。シユーベルトはともかく、シューマンの4番は各楽章が切れ目なく続き、第1楽章の主題が他の楽章にも現れるいわゆる「循環形式」でもある典型的なロマン派様式ではないか、という反論があるかもしれない。たしかにおおまかな曲の構図はその通りなのだが、主題の性格や展開のしかたなど、音楽の基礎的なところが古典派的だと思うのである。古典派のモーツァルトが、その形式の枠内で時にデモニッシュ(悪魔的)といわれるほどのロマンティックな表現をするのと通ずるものがあるのだ。

シューマンは、その音楽を聞くと、青春の懊惱を一身に背負い込んで生涯のたうちまわった人ではないかと思える。荒野の彷徨を夢見、自ら進んで苦難に身を投じたバイロンのような音楽家である。同じタイプの作曲家に7歳年長のペルリオーズがいるが、ペルリオーズの世界がカラフルなのに対し、シューマンの世界はモノクロという印象である。これはフランスとドイツのちがいであろうか。この二人の共通点は、ロマン的感情があまりにも強すぎて、音楽がそれに付いていきかねて時にからまわりしているように思えることである。それがまたこの二人の魅力でもあるのだが。

さて、シユーベルトの《ザ・グレート》とシューマンの4番については、伝説の大指揮者フルトヴェングラーの名演奏がつとに知られている。フルトヴェングラーの《ザ・グレート》の演奏については2002年の演奏の際、プログラムに「ある刷り込み現象」と題して書いた。彼の解釈が刷り込まれてしまって他の演奏を受け付けなくなったというのがその主旨だが、フルトヴェングラー独特のアゴーギク(テンポの緩急操作)があの長大な曲を退屈から救っているのである。

フルトヴェングラーによるシューマンの4番も迫力満点の熱のこもった演奏である。だが、《ザ・グレート》において非常に効果的であった彼のアゴーギク術がこの曲ではいささかマイナスに作用しているのではないかと私には思えるのだ。シューマンにおいては「ロマン的感情があまりにも強すぎて、音楽がそれに付いていきかねて」いると前に書いたが、フルトヴェングラーはそこをさらに感情移入して、大げさにしそぎてしまっているように思えてならない。表現をやや抑制気味にしたほうがかえってこの曲のロマン性がにじみでてくるのではないかと考えるのだがいかがであろうか。

ピアノ協奏曲 イ短調

1841年に「ピアノと管弦楽のための幻想曲」として完成、発表された曲を第1楽章として、新たに第2、3楽章を追加作曲して1845年にピアノ協奏曲として完成された。翌年に愛妻クララのピアノでライブツィヒ・ゲヴァントハウスにおいて初演されている。ベートーヴェン以後の最も優れたピアノ協奏曲であり、以後の Brahms, Grieg, Chopin, Liszt 等のロマン派・民族派の名ピアノ協奏曲の原型となったといえよう。なお、この曲の第3楽章の第2主題では、3拍子の中で2拍子的リズムが混在する「ヘミオラ」という特異な手法が用いられているのが注目される。このリズムはシューマンの特に好んだもので、交響曲第4番でも使われている。

チェロ協奏曲 イ短調

1850年に作曲。シューマンの生前には演奏されず、死後4年経って1860年に初演された。ハイドン、ドヴォルザークのものとともに「3大チェロ協奏曲」とされるが、その中でも最もユニークな作品である。3つの楽章が切れ目なく続き、オーケストラだけによる進行部分がほとんどなくて独奏チェロが弾き詰めの曲なのである。チェロという楽器の性格にふさわしい(?)唯我独尊的協奏曲といえようか。だがそのロマン的風格はなんともいえぬシューマン独特のものがある。

交響曲 第4番 ニ短調

シューマンはオーケストラ作品に集中した時期が比較的遅いのだが、最初の交響曲、第1番は1841年、ピアノ協奏曲と同じ年に作曲され、成功を収めた。その年にすぐ書かれたのがこの交響曲で、したがつて当初は第2番となるべきであったのだが、初演の評判が芳しくなく、10年後の1851年にオーケストレーションを改訂して出版されたので第4番となったという事情がある。シューマン自身が当初この曲を「交響的幻想曲」と名づけたように、4つの楽章が切れ目なしに続いており、第1楽章の序奏のテーマが第2楽章にも現れ、また第1楽章の主部の主題がフィナーレにも使われるなど、後の「循環形式」の先駆となる極めてユニークな形式となっている。リストの始めた交響詩の元祖ともいえよう。また、その重厚なロマン性は Brahms の第1交響曲に大きな影響を与えたものと思われる。

モーツアルト室内管弦楽団／出演メンバー

コンサートマスター●釋 伸司

第1ヴァイオリン	釋 伸司	三瀬 麻起子	コントラバス	佐々田ゆかり	ホルン	細田 昌宏
青野 久美子		池内 美紀		武村 浩嗣		小椋 順二
中川 衛子		北村 奈美		長谷川 順子		佐藤 明美
谷口 朋子	ヴィオラ	道幸 明美	フルート	大江 浩志		垣本 奈緒子
大西 秀朋		上野 亮子		久保田 裕美	トランペット	大西 由起
鎮目 直子		白木原 有子	オーボエ	中江 晓子		福田 裕司
青砥 華		松井 紀子		伊賀上 文子	トロンボーン	鈴木 智
村井 紘子	チェロ	山本 彩子	クラリネット	高橋 博		松田 洋介
本多 智子		三木 恵理		門 小夜子		三田 博基
清水 めぐみ		柳瀬 史佳	ファゴット	田中 良美	ティンパニ	小谷 康夫
原田 潤一		岡尾 有紀		佐々木 威裕		

サロンコンサート 第74回例会

～クライネ・モーツアルト～ 〈ハイドンの《朝》《昼》《晩》〉

2009年
〈没後200年ハイドン・シリーズ〉第1回

2007年7月15日(日)午後2時●ムラツリサイタルホール新大阪

交響曲 第6番 ニ長調 《朝》 Hob.I-6、交響曲 第7番 ハ長調 《昼》 Hob.I-7
ヴァイオリン協奏曲 第1番 ハ長調 Hob.VIIa-1、交響曲 第8番 ブ長調 《晩》 Hob.I-6

ヴァイオリン：菊本恭子 指揮とお話：門 良一

管弦楽：モーツアルト室内管弦楽団

【モーツアルト室内管弦楽団 初CD好評発売中！】

(2003年1月19日いすみホール・第105回定期演奏会ライヴ)

神童モーツアルト15歳の超大作！

『救われたベトウーリア』K.118(全曲・対訳付き)



テノール：畠 儀文 アルト：片桐仁美
ソプラノ：津山和代、野村ゆみ、森内美佳子
バ ス：松下雅人
合 唱：モーツアルト記念合唱団(指揮：益子 務)
指 挥：門 良一

2枚組 4,000円／後援会会員価格 3,500円

販売先：大阪アーティスト協会、いすみホール売店「ウィーン」

会長	岡本道雄(京都大学名誉教授)	谷口安平(京都大学名誉教授)
理事	大西正文(大阪ガス株式会社相談役) 森井清二(関西電力株式会社顧問)	吉野泰生(住友生命保険相互会社会長) (50音順)
顧問	斎藤房江(大阪府知事) 伊藤郁太郎(大阪市立東洋陶磁美術館館長)	關淳一(大阪市長) 梅原猛(国際日本文化研究センター顧問)

法人会員(50音順)

荒川化成工業	サントリ一産	大同ケミカルエンジニアリング	松下電器産業
上井冷熱	住金物産	大同生命保険	丸山サード
大阪ガス	住友金属工業	高松建設	丸山サーカス
大林組	住友精密工業	日本通運京都旅行支店	三井住友カード
関西電力	住友生命保険	濱田プレス工藝	ワコール*
クオーラ	住友倉庫	林福山製紙	日本セルフ
阪野商店	ダイキン工業		

個人会員(入会順、敬称略)

松井繁一世	阿部由美子	馬場明俊	和田一郎	石藤武壽	田村服部	田中隆郎	子司芳昭
深田晴世	中川泰子	阪田慶信	子策道樹	三内信一	村島河平	井田彦	子晃弘
河野幹雄	上石豊子	奥田廣俊	子子濟	小佐野	平松得	田嶋弘	子守
河野奈津子	山村幸子	森田恒	夫子	佐内田	平南村	田中平	子朗
福岡隆子	松本道子	宮和恵	道子	佐内神岡	菱足立	谷田忠	子昭
梅原一子	市哲也	和名光	修子	岡野田	東竹田	中野	隆信
石本三千也	崎川忠	桑石伏	讓子	杉浦田	中豊	岡岡	三子
田村眞也	桂彦	松枝	男功	中屋藤村	奥平	西田	武弘
竹村治	確	多枝	透	藤田野	平大	田山	外志
岸田克也	確	成田	祥	田中	飛	山野	正祐
梅屋良治	也	多佐	貫	野村	桐森	森倉	志
國友正治	也	佐野	男子	銀治	口	口	本
梅田文一	也	佐野	明郎	井今玉	口	口	林
稻垣千代子	也	佐野	朗	手木	口	口	森
浮田俊太郎	也	佐野	昭	健	口	口	倉
荻野伊都子	也	佐野	五	志崎	口	口	倉
桑山弘子	也	佐野	雄	本	口	口	正
三谷郁子	也	佐野	正	佐	口	口	正
田中康英	也	佐野	一	吉野	口	口	正
三浦信一郎	也	佐野	輝	陽	口	口	正
水島敬夫	也	佐野	輝	志	口	口	正
渡辺優子	也	佐野	正	有佐	口	口	正
平川美津子	也	佐野	大	吉	口	口	正
安藤邦洋	也	佐野	熙	小	口	口	正
橋本太三雄	也	佐野	哲	吉	口	口	正
		佐野	輝	陽	口	口	正

会費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。

(有効期間は入会時より1年間です。
隨時ご入会いただけます。)

・法人会員につきましては年会費1口10万円です。

会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)

・ご同伴者は10%割引となります。

・関連演奏会のご案内又はご優待を致します。

・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。

・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。